

会 議 録

<会議名称> 令和5年度 第2回岸和田市小中一貫教育推進会議

<開催日>令和6年3月4日(月)

<時 間>16時~17時

<場 所>岸和田市教育センター 1階 視聴覚研修室

<出席者> ○出席、■欠席

(学校関係者)

八幡校長	池内校長	田中教頭	西村教頭	何森教諭	川本教諭
○	○	○	○	○	○

(教育委員会事務局)

片山学校教育部長 (委員長)	松本学校教育課長 (副委員長)	松本人権教育課長	永井指導主事
○	○	○	○

(学識経験者)

山口教授
■

<議題等>

1. 教育委員会挨拶
2. 報告
 - ・各校区の小中一貫教育取り組み状況について(めざす子ども像・主な取り組み等)
 - ・学校の取り組み状況及び推進計画について(委員より)
3. 意見交換等
 - ・今年度の取り組みや推進計画策定にあたっての成果と課題
4. その他
 - ・小中一貫教育説明動画について(ご意見や感想など)
 - ・今後の予定

<当日配布資料>

- ・第1回推進会議 会議録
- ・小中一貫教育取り組み状況一覧

1. 教育委員会挨拶

【片山委員長】

皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、第2回小中一貫教育推進会議にご出席いただきありがとうございます。早いものでもう3月になりまして、来週は中学校卒業式、小学校卒業式が予定されております。中学校の方では今日、明日、明後日と一般選抜の出願となっております。そうした時期にお集まりいただきありがとうございます。

先月の末、小中一貫教育推進計画を各校区からご提出いただきました。どの校区でも小中一貫教育の目標やめざす子ども像を考え、小中の協働による取り組みや家庭地域との連携・協働による取り組み、来年度の体制なども考えていただきました。本日は各中学校区の計画、また今年度先行して取り組んでおられることもあると聞いていますので、事務局を中心に報告していただきます。委員の皆様と共有するとともに、来年度、円滑なスタートがきれるよう、ご意見等いただきたく思っております。限られた時間ではございますがどうぞよろしくお願ひします。

【永井委員】

それではここで本日の資料について確認します。まず、本日の次第でございます。次に、第1回推進会議の会議録でございます。本日の会議では活用しませんが、ご確認いただければと思います。次に小中一貫教育取り組み状況です。各校区のめざす子ども像と主な取り組みを抜粋して、お配りさせていただいています。お揃いでしょうか。それでは岸和田市小中一貫教育推進会議設置要領第3条第1項に基づき、この後の進行は委員長にお願いします。

2. 報告

【片山委員長】

次第の2つめ。報告です。各校区の小中一貫教育取り組み状況について、事務局よりお願いします。

【永井委員】

各校区の取り組み状況について報告させていただきます。2月末に各校区より小中一貫教育推進計画を提出いただきました。その中から、めざす子ども像、主な取り組みについて、3学期の取り組みも含めて報告させていただきます。

後ほど、委員の皆さまからも進捗状況等、報告していただきますので、岸城中校区、光陽中校区、桜台中校区、山直中校区は割愛させていただきます。それでは、取り組み状況一覧表をご覧ください。各校区の実態、強み、課題、それらを踏まえた、めざす子ども像と主な取り組みをお伝えします。

まず野村中学校区です。強みは、明るく人懐っこい児童生徒が多い、学校教育活動に協力的な家庭が多い、祭礼を通じて地域住民の結束が固い、市民協議会や学校支援地域本部を中心に学校教育活動に協力的である。

一方で課題は、基本的な生活習慣の確立、支援を要する児童生徒の割合の増加、どの教科も基礎・基本の定着が課題と聞いております。めざす子ども像は、「自ら学び、自ら考える子ども」「ち

がいを認め合い、人・もの・時を大切にする子ども」「体力の向上と心と身体の健康を守る子ども」です。具体的な取り組みとしては、PBS と呼ばれる子どものよさを認める指導を核とした生徒指導に取り組む。PBS とはポジティブな行動支援で、できていないことに着目するのではなくて、できていることに着目し、望ましくない行動を罰や叱責で減らすのではなくて、望ましい行動を称賛や承認で増やしていくという取り組みです。

次に野村中学校で実践している SEL 呼ばれる NOMU タイムを小中で共通して取り組む。この SEL というのは、ソーシャル エモーショナル ラーニングの頭文字をとったもので、ソーシャルスキルや自尊感情を育む活動と聞いております。その他、中学校で先行して取り組んでいることを小学校にも発信していく。小中が互いの教育実践を公開し、課題や具体策を共有しながら一貫教育を進めると計画しています。

葛城中学校区です。強みは、落ち着いて学習活動に取り組んでいる。学年が上がるにつれ、望ましい集団となっている。家庭や地域は学校教育活動に協力的である。PTA 活動にも協力的である。

課題は、人間関係の固定化、言葉の不足でトラブル、コミュニケーション能力、基礎学力の定着に困難な生徒が増えてきている。

めざす子ども像は、「力強く、根気強く、学習に取り組み、新しい時代を豊かに生きぬく子ども」です。具体的な主な取り組みとしては、学習面や生徒指導面での一貫した基準づくりを行う。姿勢を正す習慣「立腰」を実施する。小中で同じフレーズで子どもたちに働きかけていく。特に令和6・7年度は、「学力」にスポットをあててすすめていく。

夏の合同研修では、小中で互いに教科書をもちより、すべての教員が学びの連続性を意識する。中学校卒業時に必要な力を小中の教員で共有する。そこから、「探究的な学び」や「評価」について、共に学びあうことを計画しています。

土生中学校区です。強みは、基礎的基本的な知識の習得ができています。自尊感情・自己肯定感について、課題はあるが徐々に府や国の数値に近づいている。家庭や地域は学校教育活動に協力的である。市民協議会をはじめ、地域も協力的である。

課題は、思考力や判断力、表現力。家庭学習の充実が課題です。めざす子ども像は、「自らの考えをしっかりと持ち、適切に表現することができる子ども」「他者を尊重し、様々な意見や考えを受け入れ、ともに成長していくことができる子ども」「自分も他人も大切にできる子ども」です。

主な取り組みとして土生中学校で実施している「はぶはぶタイム」と呼ぶソーシャルスキルトレーニングを小学校でも実施する。また、小集団を活用した言語活動の充実へとつなげていく。授業規律、学習規律について、同じ方向性をもったうえで、発達段階に応じた約束事を決めるようにする。授業改善策の共有化、自主学習の充実をめざした取り組みの充実、9年間を通したキャリア教育の充実、自己有用感を高めるための取り組み、生徒指導の在り方についてなど、協働して取り組む。新年度、各部会にて、さらに具体化していくと計画しています。

久米田中学校区です。強みは、国語に関しては話す・聞く、読むことが改善傾向。算数・数学については、数と計算分野が改善傾向。地域住民は行事やスクールボランティアに積極的に参加し、教育活動に協力的。

課題に関しては、国語では、考えをまとめる力、わかりやすい文章で表現する力。算数・数学では、情報やグラフ、表を読み取る力に課題がある。スマホの利用時間の長さ、家庭学習の取り組みが弱い。コミュニケーションや基本的な生活習慣に課題がある。めざす子ども像は、「ちがいを認め合い、自ら考え学びあい、心身ともに健やかな子」です。

主な取り組みとしては、学力向上に向けて、互いに課題と具体策を明確に示し、共有しながらすすめる。家庭学習に結びつくノート指導について、研究を進める。コグトレやNIEなど学びの土台作りを継続していく。あいさつ運動など、定期的な児童会・生徒会の交流を持つ。組織体制としては、生徒指導、学習指導、人権教育、特別支援の4つの部会をもつ。新年度に入ってから、各部会の会議をもち、より具体的な取り組みを検討していく。生徒指導部で実施している定期的な担当者会を研究・人権教育・特別支援教育でも実施し、情報交換を密に行うとともに一貫教育をすすめる。

春木中学校区です。強みは、明るく元気で人懐っこい。おおむね落ち着いて学校生活を送っている。

課題は読む力・書く力。活字を読む機会が少ない。スマホ利用時間、自己有用感、人間関係作り、コミュニケーション力、勝ち負けにこだわるところ、家庭学習が弱い。

めざす子ども像は、「豊かなコミュニケーション能力を身につけて、柔軟に物事を考えられる子ども」です。キーワードは、子どもどうしのつながり、子どもどうしで認め合う、折り合いをつけられる、オールOK、勝ち負けにこだわらない、いろいろな人と関わることができる、自尊感情を高める、です。

主な取り組みとしては、自尊感情とソーシャルスキルを育てる取り組み「はるちゅうタイム」を校区全体で実践する。今年度より小学校においても可能な範囲で取り組みをすすめています。2/16に実施した春木中学校校内研修では、2小学校から全教員が参加。はるちゅうタイムの様子や授業を参観。曾山教授のスリンプルプログラムについての研修を、ともに受けました。学習指導については、コミュニケーション能力を育む授業づくりをすすめる。課題を共有し、同じ方向性、目標をもって取り組むことを計画しています。推進会議、各部会を通じて、取り組みの具体化や改善を行っていく。

北中学校区です。強みは、家庭地域は学校に協力的、地域やボランティア活動に積極的。

課題は、記述式問題の正答率が低い、国語の無回答率が多い、愛着に課題があると思われる児童生徒、自己肯定感の低さ、遅刻や長欠、基本的な生活習慣の確立が課題です。

めざす子ども像は、「主体的・協働的に学びながら、努力を惜しまず最後までやり遂げようとする子ども」「自分を大切に、家族や仲間を大切にできる子ども」「自分が育つ街に誇りを持てる子ども」

具体的な取り組みとしては、今年度よりできることから取り組みを進めている。夏に小中合同研修会を実施。校区の実態を共有するとともに、小中9年間で見通した発達支持的生徒指導について考えた。10月、11月の各校研究授業で相互参観を行い、学校の様子や授業方法について意見交流を実施。各部会の担当者が集まり、来年度の取り組みについて検討している。全校共有フォルダを活用し、小中で資料を共有している。

中心となる取り組みは人権教育・国際理解、自己肯定感・自己有用感を高める取り組み、児童会・生徒会活動。あいさつをしよう・ひとの話を聞こう。ルールを守ろうといったアヒルの約束の徹底、校則の共有、授業スタンダードの確立、課題を共有した授業改善を行うと計画しています。

山滝中学校区です。強みは、何事にも真面目に取り組む、学習の基礎基本の力がついている、教育活動に協力的な家庭が多い。

課題は、読解力・思考力、家庭で計画を立てて学習することに弱さがある。めざす子ども像は、「言葉の力をつけ、思いや考えを豊かに表現できる子ども」「社会の中で価値観を広げ、活躍できる子ども」です。

具体的な取り組みとしては、生徒指導、人権、学力の3本柱で取り組みをすすめていく。学びの土台作りとして、コグトレ・読書活動の推進に取り組む。授業の中の基本的なルールをそろえる。小中相互授業参観を行い、情報交流するとともに、課題を共有する。家庭学習の定着に向け、取り組みをすすめると計画しています。以上で報告を終わります。

【片山委員長】

それでは、各委員の校長先生、教頭先生から、ご自分の中学校区の状況、推進計画も含めて、ご報告をお願いしたいと思います。それでは東光小学校、八幡校長先生よろしくお願いします。

【八幡委員】

岸城中校区の欄をご覧ください。めざす子ども像について、これはキャリア教育の全体計画を活用しています。キャリア教育に関する中学校区の全体計画を考える際も、校区小中学校が集まって考えておりますので、そこを活用しています。

具体的な取り組みとしましては、短時間グループアプローチを全校区でやっというようになっていこうとなっています。1月に合同研修会を行いました。それから、学校と家庭が連携し家庭学習の推進を行うということで、岸城中学校の定期テストの期間に合わせて、スタディウィークを設定し、小学校でも家庭学習に取り組んでいきたいと思います。

続けて光陽中学校区についても報告します。めざす子ども像については、いったん校長3人で集まって課題を挙げて設定しました。粘り強さとか、コミュニケーション力に課題があるかなと思います。

具体的な取り組みとして、光陽中学校で学びあいによる学習活動を積極的に取り組んでいるので、小学校でも広げていくことができると考えています。校区実態として、SNSの使用時間やSNSを通じたトラブルが非常に多いので、家庭と連携して啓発していかなければならないと思っています。児童会と生徒会との交流も進めていくことができると考えています。

岸中学校区では先日、担当者も集まり、会議を行いました。光陽中学校区のほうは管理職が複数回集まり協議を行っています。春休み中に担当者も含めて連携会議を実施し、職員全体で共有していく予定です。以上です。

【片山委員長】

ありがとうございました。東光小学校は2中学校にわかれて進学することになるので、調整が難しい面もあるかなと思います。それでは山直中学校 西村教頭先生よろしくお願いします。

【西村委員】

めざす子ども像に関しては現在検討中で、山直中、山直北小、城東小のめざす子ども像を突き合わせています。今年度からいろんな取り組みをなるべく小学校と一緒にやっていけたらなという事で、管理職と小中一貫教育担当者が協議の場を持っています。

2月末にも、中学校の小中一貫教育担当が山直南小学校も含めて、各小学校へ行き、来年度の取り組みを考えさせていただいています。生徒指導に関しては、小学校から中学校に入って、校則のちがいにギャップを感じてしまうケースもあるので、小中で連携しながらすすめています。

来年度も小中の生徒指導担当が定期的な情報交換を行い、方向性を決めていきたいと考えています。児童会・生徒会についても、つながりを深めていこうということで、今年度、ファーストリテイリングに協力していただき「服のチカラプロジェクト」に参加し、子ども服を集めました。校区小中学校、児童・生徒・保護者、地域も含めて実施させていただきました。それによって、自己肯定感や自己有用感が高まったり、児童会・生徒会活動が盛り上がっていったように思います。来年度もこういった取り組みを行い、児童会・生徒会が交流していくことができればと考えています。

学習面の課題として、家庭学習の時間が短いということがあげられます。「すす勉ウィーク」を設定して、中学校の定期テスト1週間前に校区をあげて、家庭学習の充実を図ろうと考えています。

「授業に取り組む」ということについては、小中ともに前向きにできているのですが、「家に持ち帰って学習する」ということに関しては、課題があります。家庭学習が充実するかどうかは、授業力とつながっていると考えています。どうすれば家庭学習につながるか、どうすれば活字を読む習慣がつくか、など協議しているところです。

山直中学校には「授業5ヶ条」という授業を受けるにあたっての約束事があり、それを小学校と共有しているところです。相互授業参観に関しては、今年度は中学校から小学校へ参観に伺ったのですが、来年度は小学校から中学校へも参観していただく機会をつくることができればと考えています。職員一斉の参観は難しいかもしれないので、一定の期間を設けるなどして、参観しやすいよう工夫ができればと考えています。

特別支援教育については、現在も中学校入学前に小学校児童生徒が中学校支援学級の見学に来てもらったりもしていますが、さらに密に連携を深めて、安心できる環境をつくっていくことができればと考えています。

【片山委員長】

ありがとうございました。それでは引き続き、中央小学校 田中教頭先生よろしくお願いします。

【田中委員】

1月15日に名城大学の曾山先生に来ていただいて、短時間グループアプローチの研修を行っております。中央小学校が今年から取り組んでいるスリンプルプログラムについて、校区の先生方

に取り組んでいるところを参観していただきました。その後、曾山先生の研修を受けました。曾山先生のお話の中に、この短時間グループアプローチを10年間続けることで文化になっていくとお話しされていました。短い時間での活動ですが、継続していくことに価値がある。校区で継続して、じっくりやっていくことが大切だと感じました。

2月20日に小中一貫教育担当者会議を実施し、そこで実施に向けての打ち合わせ等を行っております。取り組みとしては、全校区で取組んでいる「立腰」や「朝の読書」など、共通して取組んでいることを整理し、目的など共通理解を深めています。現時点で取組んでいることの整理や深めることと、短時間グループアプローチを柱として取組んでいくことにしています。各校、さまざまな取り組みをすすめていますので、情報を共有し、精査していくことになるかと思っています。自己肯定感や自己有用感を高める活動として、中央小学校では、「いいねレター」や、子どもの素敵な活動を写真等で掲示する「キラッとフォト」という取り組みを行っています。呼称は各校でちがいますが、それぞれの学校でさまざまな取り組みを行っていますので、それらも共有しながら、自己肯定感や自己有用感を高めていくことができると考えています。

校内の組織体制については、小中一貫教育推進担当を置くとともに、生徒指導・特別活動・研究・学力・人権教育・特別支援教育の部会を持ち、情報交換や具体的な取り組みを考えていきたいと思っています。以上です。

【片山委員長】

どうもありがとうございました。それでは桜台中学校 池内校長先生よろしくお願ひします。

【池内委員】

一昨年の秋からモデル校区として取り組みをスタートしました。校区3校が共通する課題を話し合っ、めざす子ども像を決めるところからはじめました。桜台中学校としての一番の課題は、コミュニケーションをとるのが苦手な生徒が多いということでした。

学習については、一定向き合っているのですが、自ら主体的に学びに向かっているという面では、小中ともに課題があります。そのエビデンスになったのが、全国学力学習状況調査の生徒質問紙の回答やチャレンジテストの生徒質問紙の回答です。全国と比べたとき、そこが全国平均と比べて下回っているということもあって、課題を解消する取り組みを考えていきたいと思います。昨年度はそれぞれの学校が力を入れて取組んでいることがあったので、例えば常盤小学校であればビジョントレーニング、桜台中ではコグトレを取組んだり、それぞれの学校でやっていることを互いに共有しながら、今年は可能な限りすり合わせていきたいと思います。ということで取組んでいきました。

来年度の取り組みについては、立腰、朝の読書は継続して取組むことになりました。小学校ではコグトレを継続し、中学校ではコグトレをやめて、コミュニケーションスキルやソーシャルスキルを高めるスリンプルプログラムを重点的に取組む計画をしています。まず中学校が先行して取組んで、取組んでいる姿を小学校にも見てもらいながら、小学校へ広げていけたらと考えています。桜台中学校の先生には、中央小学校や春木中学校の公開研究授業のときに参加させていただき、校内でも研修をしました。1月、現6年生を対象にした入学説明会を実施したときに、中学校の教員が児童に説明を行い、スリンプルプログラムを体験してもらう時間を設けまし

た。小学校の先生にも、取り組んでいるところを見ていただく等、無理のないよう、機会をみて、お互い取り組んでいることを交流しています。

常盤小学校 SE の公開授業や光明小学校 JK の公開授業の際に、桜台中学校から複数名参加させていただきました。逆に桜台中学校が公開授業をする際には、小学校の先生に可能な範囲で来ていただくようアナウンスしています。

桜台中校区の組織体制としては、生徒指導に関する部会と学習支援に関する部会と地域連携に関する部会の大きく3つに分け、学習支援については、研究担当と特別支援教育担当に分け、それぞれ主担を決めて交流を持ってもらいました。

生徒指導に関する部会は、密に連携を取って交流を持つことができました。小中に関わる生徒指導事案があればすぐに連絡を取って行かせてもらったり、来てもらったりもしています。生徒指導に関する方針やスリンプルプログラムに関しても、生徒指導担当者が密に連携をとってくれています。

学習支援に関する部会は、昨年2回、部会の担当者が集まり協議を行いました。小学校はミニ研修を定期的実施していて、「情報」に関するような研修もやっているということなので、中学校の教員も参加することができればと話し合いました。ミニ研修や講師の先生を招くようなときは、互いに案内を出すことにしました。結果的に、まだあまり多くの参加はできていないですが、お互いどういったことに取り組んでいるかを知る機会になっています。

特別支援教育に関しては、中学校が5月の初旬と10月末から11月にかけて「きてみてスクール」を開催しています。5日間程度「いつ来て、見てもらっても大丈夫です」という期間を設けています。地域、保護者、小学校に向けての公開授業週間があります。そこで小学校の支援学級在籍の児童・保護者が見学することができます。親子で参観に来られたり、支援学級の担任の先生が児童と一緒に授業を見学したり、体験したりもしています。先を見通して、小学校4年生の保護者が来られて、中学校の支援学級を見学され、相談に来られた方もいました。支援学級の児童には、入学までに中学校はこんなところで、こんな教室で、こんな勉強をする、と知った上で入学するので安心感をもってもらっています。

支援学級の運動会は、校区で実施することになりましたが、連携もスムーズにできました。今年度は常盤小学校にて、2日間で実施しました。小中一貫教育をすすめているので、小中でうまく調整もできて、子どもたちは楽しく参加することができました。

来年度に関しては、学習支援に関する部会の中に、情報担当も入れて、情報活用能力について、一貫して取り組んでいくことができればと思っています。常盤小学校では情報活用能力の向上に力を入れて取り組んでおられるので、中学校でも小学校での学びを活かしていきたい。小中9年間を見通した情報活用能力の育成を行いたいと考えています。発達段階に応じて、体系的に情報活用能力を育成していけるよう、一覧表のようなものがつくれたらと思っています。先日、大阪府から、情報活用能力ステップシートが届いたので、それを参考にしながら、校区でできることを一緒に考えていきたいと思っています。以上です。

3. 意見交換等

【片山委員長】

ありがとうございました。今年度の状況であるとか、また次年度の計画について、簡潔にお話

しいいただきました。次に次第の3番、意見交換に入りたいと思います。校長先生・教頭先生にお話しいただきましたが、教員代表として何森先生・川本先生にご参加いただいていますので、ご意見や感想などがあれば出していただければと思います。

どの中学校区もご自身の学校のことはよくわかっていると思いますが、こうした機会ですので、他の学校が何をめざして取り組んでいるのか、あるいは今年度推進計画を作成したり、取り組みを先行して進める中で、成果や良かったと思えるようなところ、逆に課題やうまくいかなかったこともあると思います。そういったことを忌憚なく出していただき、ここで共有しながら意見ももらって、来年度に活かしていくことができれば思っています。来年度は、各中学校区でこの計画に基づいて進めていくことが中心になります。各中学校区が進めていくうえでの支援につながればと思っています。それでは何かご意見等ございましたらお願いします。

【片山委員長】

桜台中校区では今年、合同で運動会を実施されたのですか。

【池内委員】

昨年度もそうでしたが、支援学級の運動会について、校区で実施することになりました。昨年はオンラインで実施したのですが、今年度は常盤小学校の体育館で実施しました。小中合同になると100名を超えるので、低学年の部と中・高学年の部にわかれて実施しました。小中一貫教育の担当者会や夏の合同研修で顔を合わせつながっていたので、支援の担当者同士が密に連絡をとりながらすすめることができました。

【片山委員長】

運営もなかなか大変な状況ですが、それまでに顔を合わせる機会や先生同士の連携ができていたので、スムーズにすすめることができたということですね。その他、ご意見等ございますでしょうか。

【何森委員】

先日、土生中校区で来年度の年間計画について、教務担当が集まってオンラインを通じて、相談を行いました。その際、一つの学校の方から来年度は中学の夏の研修会はいつですか？という質問が出されました。何でそんなことを質問するのかを確認すると、その方は、小中一貫教育のことで小中が合同で研修を実施すると聞いているとのことでした。他の二人はそのことを全く知らない状態で、夏の予定を立て始めているというやりとりが行われました。いつか知らされるのかなと思いながら教務の打ち合わせは終わったのですが、大体の校区がそういった状況なのですか。

今回もらった資料によると、山直中学校は現在検討中とありますが、他の校区は一通り、めざす子ども像、主な取り組みのところが状況も含めて記載されていますが、どれくらい職員に知らされているのでしょうか。来年度の年間計画については揃えておきましょうと、校区で行事など重ならないよう、毎年この時期にやっている会議ですが、少なくとも現時点では、教務担当でさ

えも知っている学校は1校で、残り2校は知らない状態だったのですが、大体そんな感じなのでしょう。

【八幡委員】

岸城中校区、光陽中校区、両方調整とかしたのですが、やはりおっしゃるようにスタートの苦しみが結構あって、学校によって状況はちがうと思います。どこまで先生方に伝わっているかというのは温度差があるように感じています。取りまとめを行って思ったのは、小中一貫教育を担当される方は、ある程度学校全体を俯瞰できる人が担当するほうが望ましいと思います。そこを基にいろんな計画を考えていく。

小中一貫教育担当者が俯瞰的に学校全体をみて、行事なども入れていくことができればと思います。もう一点、各学校の年間行事を出していただいて、この推進計画を作るときに、共通する項目をすり合わせていきました。このすり合わせを行わないと、先生方におろしたときに、何をしたらいいかわからないだろうし、何か無理に新たなものを作るものではないと思っていますので、共通項を見出す作業が必要かなと思っています。実際に各学校間の調整をしていて、そのように感じました。

【松本副委員長】

何森先生がおっしゃっていた、担当者まで話がおりにきていないということについて、管理職同士で話しをして、夏に合同研修を実施するとなっているが、一つの学校にしか情報がおりになかった。校長・教頭・小中一貫教育の担当者しか共有できていなくて、学校の計画を立てていく教務担当に伝わってなかった。他の校区でも、情報が共有されていないことがあるのではないかとということです。

【何森委員】

はい。

【松本副委員長】

先月の校園長会と校長会の方で、小中一貫教育に限らず、学校としての方針をしっかりと職員に周知してほしいというお話をさせてもらいました。先ほど、八幡校長先生がお話しされたように学校間で差がでてしまっているところがあるのかなと思っています。その部分を改善していかないといけないと思います。

もう一つは、これも八幡校長先生がお話しされましたが、桜台中校区でミニ研修を実施したりという話がありましたが、これが逆に負担になってしまったらよくないと思います。計画を立てるためにやるとなってしまうてはいけません。今回のこと言うと、夏に合同研修を実施しないといけないということが目的になってしまっているてはいけません。状況を見て共有できそうであれば共有していく。桜台中校区のミニ研修であれば、取り組んでいるところに、他の学校が参加させていただくわけなので、負担にはならないのかなと思います。

【池内委員】

やはり、はじめから形を整えてやるのは難しいだろうなと思っています。桜台中学校区では年間計画を立てるにあたって、中学校の年間行事予定をとりあえず1月時点で予定しているものを入れて、昨年度の年間計画も参考に加除修正しながら、小学校の担当者にも見てもらい、年間計画を立てていきました。

非行防止教室なんかは、それぞれ違う日程でいれていますが、桜台中学校区では、この時期に共通して取組んでいることがわかるよう記載しています。唯一調整したのは、夏の三校合同研修です。これはこれまでも、輪番で担当校を決めて実施しているので、担当校が研修の講師の調整や日程・会場などの準備を行ってくれました。

実は、今年度の合同研修は課題も残りました。1年前から特別支援教育について研修を実施しようと、講師の先生や日程も決まっていた。管理職としては、小中一貫教育の取り組みとして実施するので、担当者同士で話し合う場を設けようと考えていました。しかし、研修会場が協議できるような場所ではなかったため、その会場でできることを担当者が検討してくれました。

先ほどのお話にもありましたが、合同研修の持ち方の詳細を決めていくのは管理職ではなく、小中一貫担当者なのですが、初めからうまくすりあわせをしてすすめたり、意思統一しながらすすめていくことの難しさも感じました。計画をすすめるにあたって中心になる先生は、ご苦労されたかもしれませんが、全体の先生方には大きな負担はなくすすめられたのかなと思っています。

【松本副委員長】

例えば、桜台中学校区の例であげると、常盤小学校でミニ研修をやることになった、けれどもその時間帯に皆が合わせていけないのであれば、それをオンラインで共有したり、動画を撮って校区内で共有したりするのも一つの手立てじゃないかなと思います。

合同研修を行うことが小中一貫教育ではないと思うので、そこは柔軟にやっていくことができると思います。ただ、先ほど何森先生がお話ししていたように、情報が共有されていないのはよくない。管理職や小中一貫教育担当者から情報共有がしっかりできるようにしていけないと思います。

【片山委員長】

今、何森先生や池内校長先生がお話しいただいたことは、取り組みの本質にかかわることだと思います。何森先生から、合同研修について情報が共有されていなかったとお話がありましたが、この小中一貫教育の取り組みもそうですが、どういった取り組みであっても、先生方が力を合わせて何かに取り組むというときに一番大事なことは、その取り組みの目的が先生方に理解してもらっているか。

どこに向かって行くかもわからない中で、「頑張る」といわれても頑張る意欲はわかない。やはり目的や趣旨、取り組みのめざすものが、校長・教頭・担当者はもちろん、それ以外の先生方も理解していないといけない。そうでないと、結局、何をしても「やらされている」「忙しい中、やらないといけない」といった感じになってしまう。目的や趣旨などがしっかりとすべての先生に浸透していかないといけない。

来年度スタートしていくうえで、皆が納得した上で進められるよう、委員会としましても、そこをどう後押ししていくかを考えないといけないと思います。

それに付随してですが、今まで各小中学校が、それぞれの学校の特色や実態に応じて、いろいろな取り組みをやっているわけです。近しい取り組みはあるかもしれないけども、近しいからといって全く同じじゃない。そういった近しい取り組みがあるので、それを一緒にしようかと一つにまとめようとする、どこかでひずみが出てきてしまう。

先ほど松本委員からお話ししましたが、小中一貫教育をやるので合同研修をやりましょうという発想ではなくて、小中一貫教育の目的、めざす子ども像に向けて進めていくには、合同研修が必要なのか。そうであれば、どういった合同研修のありかたがよいのか。というように考えていかないと、それを飛び越えて進めていってしまうと、議論に参加できない先生が出てきてしまって、結局、取り組みをすすめるハードルになってしまう。

取り組みが進まないのは、取り組みについて後ろ向きなのではなく、取り組みの趣旨や目的がわからないのだと思います。だから、すべての職員が趣旨や目的を理解しているということ、そしてこれまで各学校が大切にしてきた取り組みがあるので、それをどう重ね合わせていくかという作業も必要かと思っています。

今後の計画をつくるにあたって、無理に一緒にやっというところ、うまくいかないところも出てくるのだと思います。それは当然なこと、だから、これまでも私の方から申し上げていますが、来年度の4月スタートが、100点満点の状態スタートできるとは全然思っていないで、報告があったようにこの主な取り組みもやりつつ、この中でも校区の中で重点的に取り組まないといけない内容も出てくるでしょうし、逆にこれは順番的には後回しにしてもいいのではというものもでてくると思います。

小中一貫教育を含め、学校の取り組みの趣旨や目的を全職員が共有して、先生方が納得して取り組んでいくことが大切ではないかと思っています。ご意見をお聞かせいただいて、今後の取り組みに向けてのいいヒントが得られました。

【何森委員】

付け加えさせていただきますと、全ての教職員が意見を出すことができるか、ということだと思っています。それはきちんと情報を知らせてもらい、意見があれば発言する機会があるということだと思っています。情報を知らされていなければ、意見を出すこともできません。情報がすべての職員にいきわたるようにしてもらいたいです。

【川本委員】

合同研修とかもすごく重要だと思うのですが、やはり日々大変なので連絡がうまくいかないということもあるかと思っています。今やっていることを組み合わせることが大切だと思います。

既にあるものを活用することで、それがかえって浸透するということもあるかなと思います。私の校区では、昨年、新入生説明会で、中学校で実施している「アドジャン」という取り組みを児童に体験してもらいました。そうしたことから、新入生のスムーズな取り組みにつながったり、小学校でも試してみようということにつながりました。既に取り組んでいることを、組み合わせてやっていくことがいいのかなと思います。

【片山委員長】

野村中学校区では、野村中の取り組みを朝陽小の先生方が実際にご覧になって、実感をもって、これは小学校でも取り入れてみようと考え、小学校の動きにつながっているのかなと思います。

【川本委員】

野村中学校区では、合同の研修を実施したり、中学校の研修に小学校から来てもらったり、中学校から小学校に行ったりしている。

【片山委員長】

そうして共通理解が深まり、意識が高まっていき、取り組みが前に進んでいくのかなと思います。朝陽小学校の先生方が理解もしないまま、取り組みを進めてほしいといわれても進まないと思います。こうしたプロセスがどの中学校区でも必要なことなのかなと思います。

それでは次第4つ目、その他です。事務局からお願いします。

【永井委員】

まず小中一貫教育の説明動画について、昨年12月からオンデマンドによる説明動画配信しておりますが、もし何かご意見等ありましたら教えていただきたいなと思っております。

【何森委員】

動画の中身どうこうというのではなくて、例えば、今出たような話というのは動画には入っていないという話だったと思います。小中一貫教育基本方針についての中身であって、推進会議で議論されたことが反映されているわけではないと思います。

【永井委員】

内容は小中一貫教育基本方針と推進計画の作成にあたっての留意点となっています。

【何森委員】

もちろん、「合同研修にこだわらなくてもいい」といった話のことではなく、ここで話し合われたことの趣旨が伝わるよう発信することも必要だと思います。

【松本副委員長】

前回の校園長会・校長会では、小中一貫教育推進会議の前々回の議事録をすべて印刷して配布させてもらっています。ホームページにもあげているという話もさせていただきました。それらも活用しながら職員に周知していただきたいと話をしました。引き続き、市教委から発信していきたいと考えています。

【片山委員長】

前の動画は外枠的なこと、制度のことや仕組みのことを説明している。それよりももっと深く踏み込んで、実際に各学校が取り組んでいくにあたって、どんなことに気をつけたらよいか、何を大事にしたらよいか等、取り組みの直接の動きにつながるような内容もいるのではないかと。それが、今ここで話し合われているので、そういったことも発信してもらえればということだと思います。

【池内委員】

桜台中校区は、令和5年度、先行して取り組みを実施しました。教員の入れ替わりもあった中で、4月、自校の教育方針を打ち出す際に、小中一貫教育推進計画も全職員で共有を図りました。

エビデンスも合わせて校区の実態や小中で一貫して取り組むこと等を共通理解しました。年間計画はそれぞれの学校の公開授業や研修を入れこみ、それぞれの学校がどの時期にどういったことに取り組んでいるかわかるようにしました。職員が他の学校の公開授業や研修に参加しやすいよう発信をしました。令和6年度は、すべての校区で小中一貫教育推進計画ができたので、職員会議等で共有してもらえればいいのではないかと思います。

4. その他

【片山委員長】

ありがとうございます。推進計画を職員で共有するというのも一つの方法ではないかということでした。それでは今後の予定について、事務局からお願いします。

【永井委員】

今後の予定について2点お話をさせていただきます。1点目は来年度の小中一貫教育の担当者会についてです。来年度、各学校の小中一貫教育担当者にお集まりいただきまして担当者会を実施したいと考えています。4月15日(月)、岸和田市教育センターにて、第1回小中一貫教育担当者会を実施したいと考えています。あらためて、岸和田市小中一貫教育の趣旨や方針をはじめ、推進会議で協議したこと等、担当者の方々にお話させていただきたいと考えています。

2学期には学識を招いて研修会という形で、先進的に小中一貫教育を進めている他市町村の好事例等も含めて、実施したいと思っています。また各校区で協議を行い、取り組みの振り返り等を行い、2学期以降に活かせるようにと考えています。

2点目は小中一貫教育推進会議についてです。来年度も小中校長会・教頭会、教員の代表の方々にお集まりいただき、協議の場を持ちたいと考えています。小中一貫教育担当者会から出てきた意見を検討したり、「新たな科」を進めるにあたっての教材作成の進捗、「新たな科」実施に向けての検討を行うことができると考えています。新年度、あらためてご相談させていただきたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。以上でございます。

以上をもちまして、令和5年度第2回岸和田市小中一貫教育推進会議終了します。ありがとうございました。